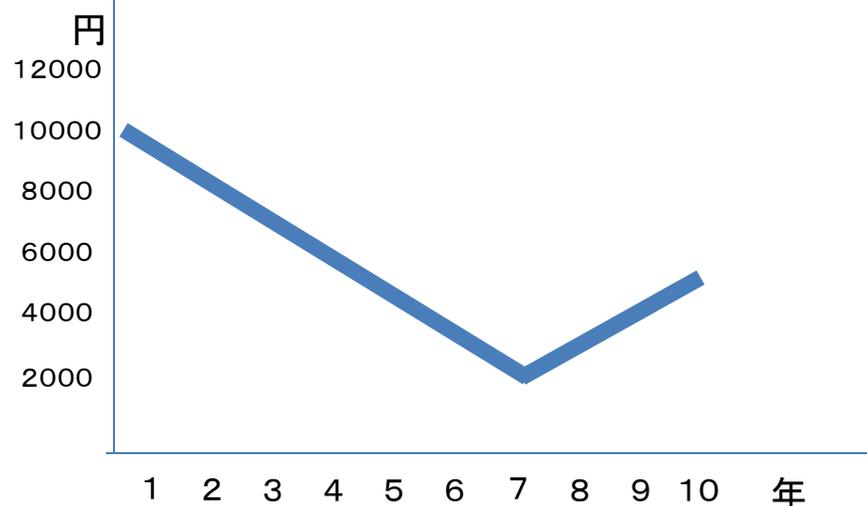


日本の良い伝統と新しい方向性を  
併せ持つ投資スタイル  
「積立投資」

(自分年金の作り方)

# 1、「値下がり安心」効果 ～どんなに下がっても安心

<半値になっても>



## 問題1

毎月1万円ずつ「積立投資」をすると、1年間で12万円、10年間の投資金額は合計120万円になります。

左図のような値動きをする投資信託に毎月1万円ずつ、10年間積立投資をした場合、10年後、120万円はいくらになるでしょうか。

(値動き)

スタート時の価格は1万円。7年後、2000円まで下落。10年後、5000円まで回復。しかし、スタート時の半値。毎月1万円の積立投資の場合、総投資額は120万円。あなたの資産はトータルでいくらになっているでしょうか。

①約72万円

②約90万円

③約139万円

## ●スタートの半値でも黒字

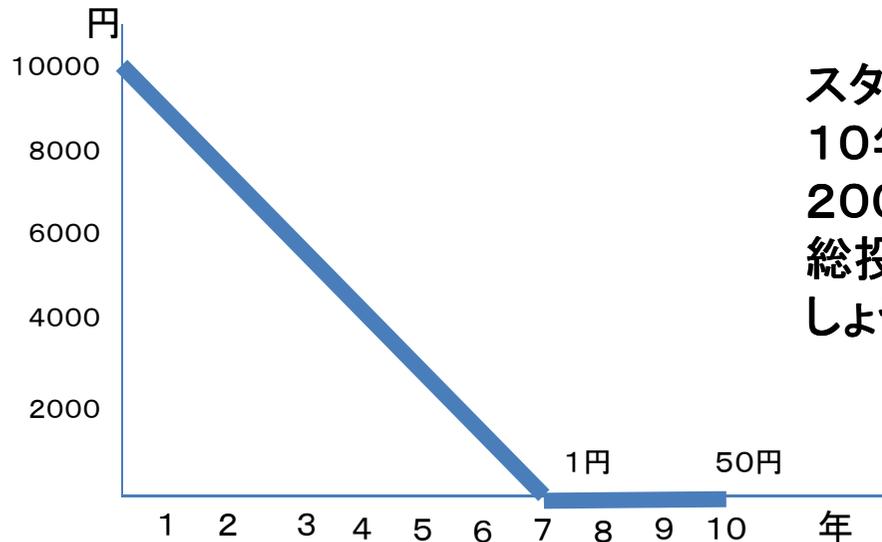
一括投資をしていた場合、投資金額120万円は10年後に半分の60万円になっています。しかし、積立投資だと黒字になりました。

## ●積立投資は下がった後が面白い

価格が下がっている時は、口数を多く買い込みます。その後、価格が上昇すると、それまで貯め込んできた口数が、高い価格で評価されるので一気に評価が上がります。

## ●どんなに下がっても少し戻せば黒字になる

### 〈1円まで下落〉



### 問題2

スタート時の価格は1万円。7年後、1円まで下落  
10年後、50円まで回復しました。スタート時の  
200分の1価格です。毎月1万円の積立投資の場合、  
総投資額120万円は果たして10年後いくらになるで  
しょうか。

- ①約52万円 ②約128万円 ③約175万円

積立投資の場合、価格が下がるということは、多くの「口数」を買い込めるという意味なので、その後の評価は変わってきます。

これが従来からの投資の考え方と大きく異なる点です。  
積立投資は「下がっても、少し戻せば大丈夫」という安心感があります。  
どんなに下がっても、そこからある水準まで戻せば黒字に回復するからです。

### ●人間の脳は「損」に敏感

人間の脳は「得」より「損」するときに悔しさを大きく感じるように作られています。

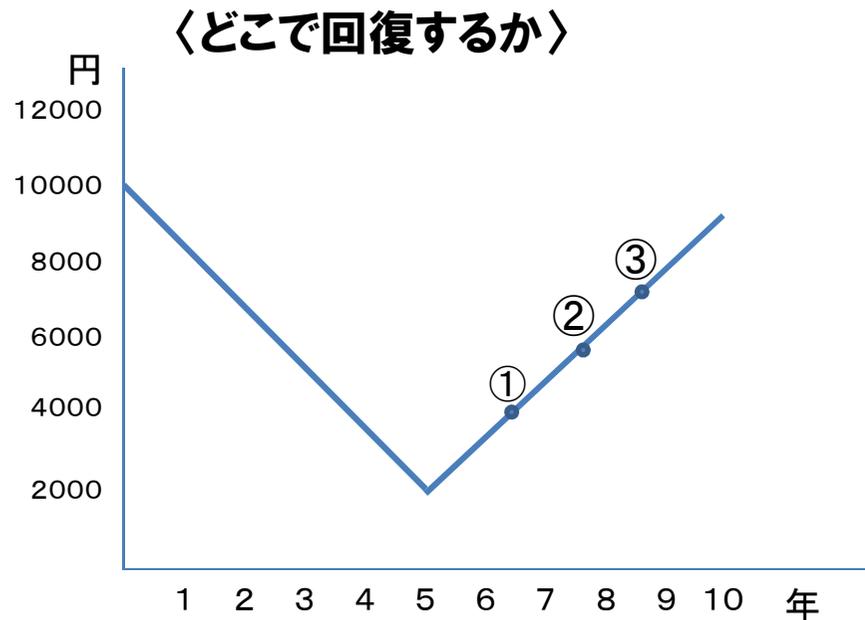
ノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマン博士によると、人間は「利益」の2～2.5倍「損失」を大きく感じるそうです。

一括投資 → 「これから先、下がるかもしれない。」

積立投資 → 「下がっても大丈夫」

損を嫌がる脳を安心させる効果があるため、気楽に取り組める投資

## 2. 「スピード回復」効果 ～損から素早く回復する



### 問題3

左の図のような値動きをする商品に「積立投資」をするとしましょう。スタート時の価格は1万円。5年後、2000円にまで下落しました。この時点で評価額は、マイナス60%です。ここから反転して、10年後に1万円に戻りましたが、さて、いつの時点で黒字化したのでしょうか？

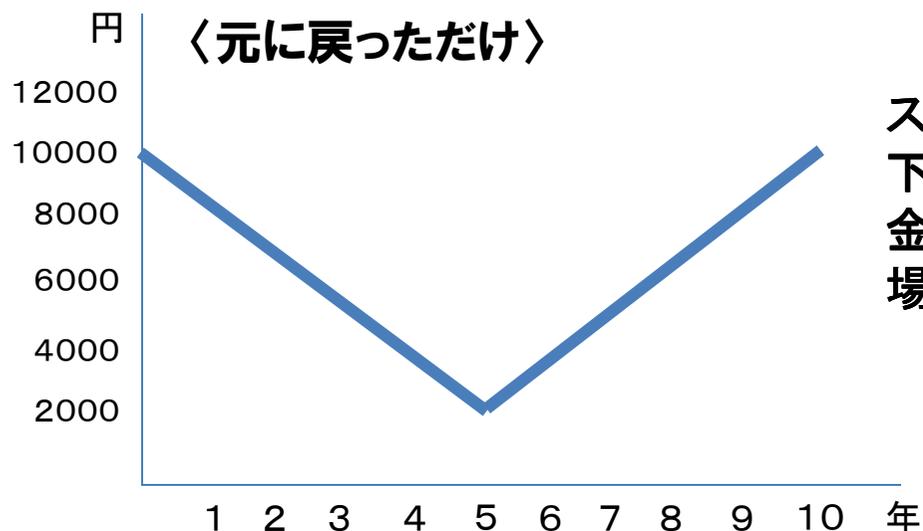
①6年6か月目 ②7年10か月 ③8年9か月

積立投資の場合は値下がり後、ある水準まで戻れば、損から回復します。一括投資の場合、スタート時点の価格まで戻らないと回復しませんので10年を要しますが、積立投資の場合、それより前(6年6か月目)に回復するのです。

**この「回復力」は積立投資の最大の特徴です。**

損をしている時間が短くなります。万が一、相場が大きく下がっても、素早い回復が期待できる投資なのです。

### 3. 「リバウンド」効果 ～下がった後に戻ればリターンが得られる



#### 問題4

スタート時の価格は1万円。5年後、2000円まで下落。10年後、1万円まで回復。スタート時と同じ金額に戻っただけです。毎月1万円の積立投資の場合、総投資金額は120万円。果たして結果は？

- ①約150万円 ②約196万円 ③241万円

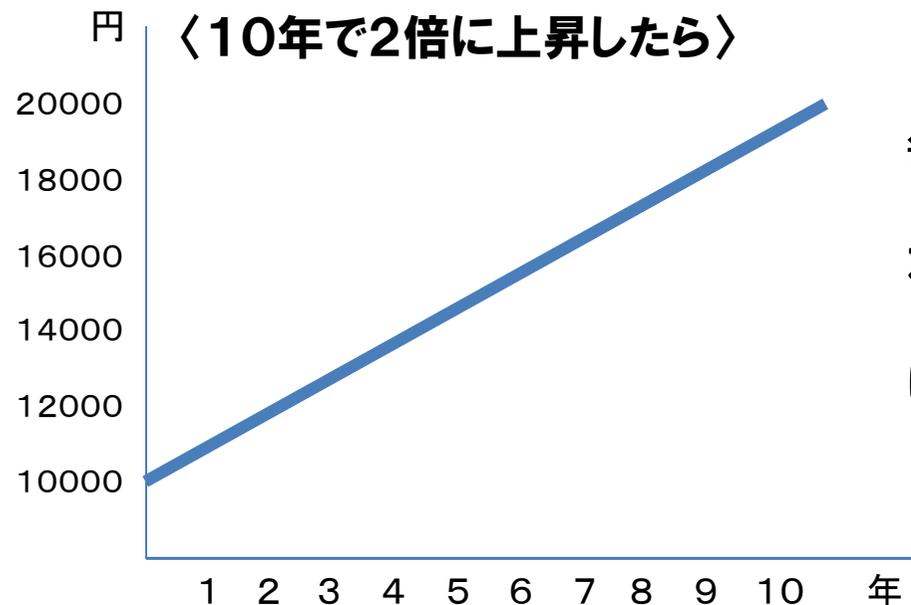
#### 値下がり＝未来への投資

通常の一括投資だと、値下がりには単に「耐える」時間です。それは「待ち」のスタンスです。一方、積立投資の場合、それは将来への「投資」の時間になります。「攻め」のスタンスです。

#### 投資手法によって値下がりの意味は異なる

一括投資	我慢・辛抱の時間＝辛い	ネガティブ
積立投資	成長するための時間＝楽しい	ポジティブ

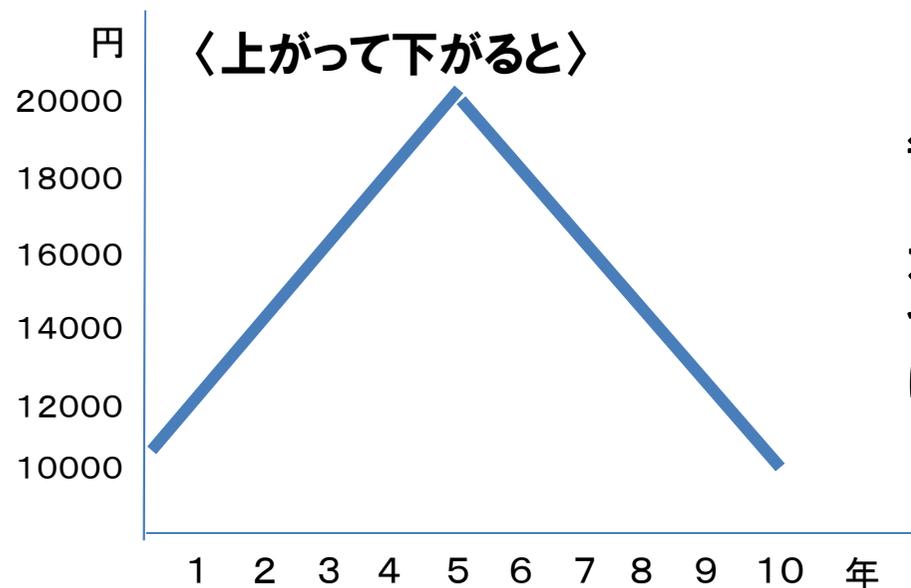
## 4. 「ストレス抑制」効果 ~上がっても下がってもストレスが抑えられる



### 問題5

毎月1万円ずつ積立投資すると、1年間で12万円、10年間の投資金額は合計120万円になります。左の図の値動きをする金融商品に毎月1万円ずつ10年間積立投資をした場合、10年後、120万円はいくらになるでしょうか。

- ①約108万円 ②約166万円 ③約196万円



### 問題6

毎月1万円ずつ積立投資すると、1年間で12万円、10年間の投資金額は合計120万円になります。左の図の値動きをする金融商品に、毎月1万円ずつ10年間積立投資した場合、10年後、120万円はいくらになるでしょうか。

- ①約59万円 ②約88万円 ③約102万円

問題⑥のケースでは残念ながら、赤字になってしまいました。  
 積立投資の評価は、値上がり後の値下がりには弱いのです。  
 しかし、積立投資家にとって値下がりとは口数を買うチャンスです。  
 問題⑥のパターンは、その時点の評価は赤字ですが、問題⑤に比べて  
 買えた口数は多くなっています。  
 つまり、10年目以降も積立投資を継続し、価格が少し上がれば一気に  
 黒字化するという事です。

〈値下がりとは将来成長するため〉

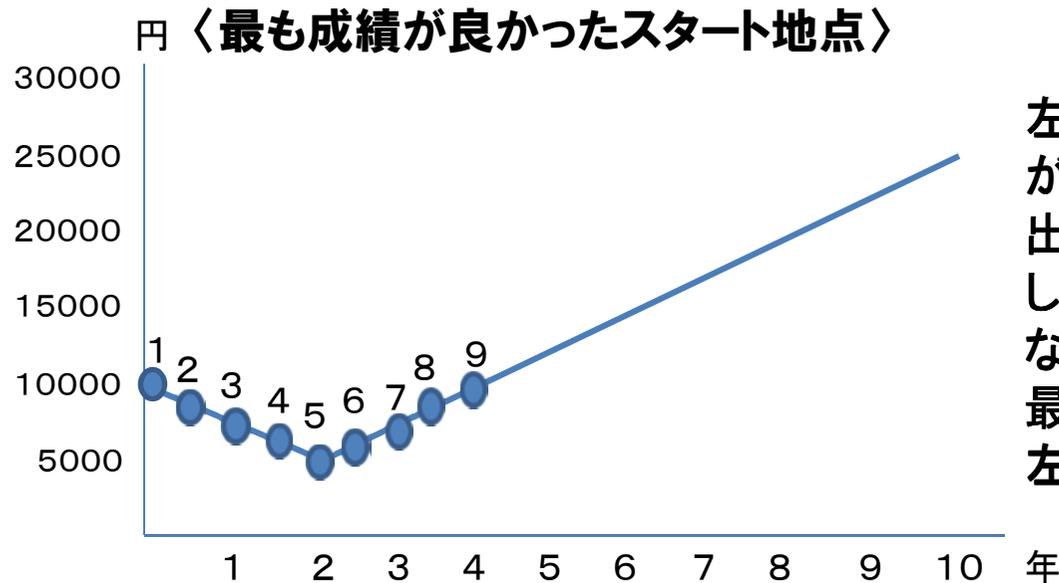
<b>時価評価</b>	 <b>Down</b>
<b>買付口数</b>	 <b>Up</b>

〈ストレスが減る投資法〉



<b>一括投資</b>	<b>ハラハラ</b>	<b>ハラハラ</b>
<b>積立投資</b>	<b>らくらく</b>	<b>らくらく</b>

## 5. 「タイミングフリー」効果 ～始めるタイミングに悩まない



### 問題7

左の図のような値動きをする金融商品があります。チャートは10年後までしか出ていませんが、その後も同じ傾きで上昇し続けます。半年ごとにスタート時期をずらしながら、10年間の積立投資を行った場合最も投資の成績が良かったスタート時点は左から何番目でしょうか。

**一括投資:** スタートのタイミングが非常に重要です。  
1回で投資するため、口数はその後変化しません。  
価格だけですべてが決まります。  
俗にいう「安く買って高く売る」世界です。

**積立投資:** 10年間の積立投資を行う場合、1年間で12回、10年間で120回の投資タイミングが来ます。スタートのタイミングとは、その120回ある買付時期の「たった1回」でしかないのです。  
ですから、積立投資の場合、スタートの時期を気にする意味はありません。

## 6. 「プロセス回復」効果 ～始値・終値だけでなく、経過の値動きが大切

**一括投資**: 安く買って高く売る世界

**積立投資**: 価格だけでなく、投資のプロセスでいかに「口数」を多く買い込むかが非常に重要です。  
商品がいくらになるかに気をとられる「価格偏重」思考から、何口積み上げるかに目を向けた「口数」思考に切り替える必要があります。

## 7. 「継続」効果

**一括投資**: 短期で上昇することを期待

**積立投資**: 長期で上昇することを期待  
長期にわたって多くの口数を買えば大きなリターンが期待できる。

投資の常識を変えてみませんか。

これまでは「売り買いの価格を当てる話」「タイミングを見極める話」  
どこか「博打」のようなイメージで語られるケースが多かった。

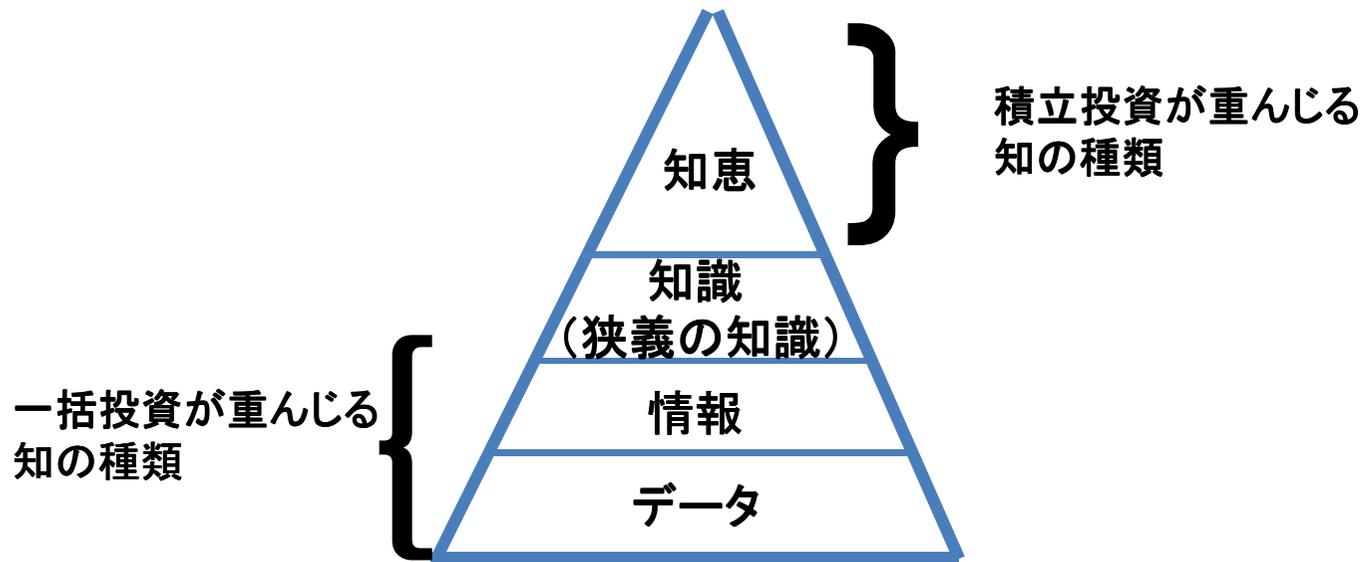
投資の常識が「継続して口数を積み上げる話」になればどうでしょう。  
「堅実」で「着実」なイメージになり、良い印象になるでしょう。

日本の投資が草の根レベルで根付くには、「価格当てゲーム」ではない  
新しい「投資の常識」が必要です。

## 8. 知恵を重視する投資

積立投資は「継続は力なり」や「備えあれば憂いなし」「支出の規律を決める(天引き)」など古から日本人が磨きあげてきた「知恵」を重んじる投資方法です。

積立投資は、日々大量に流れる「情報」に過度に反応しないで良い投資です。シンプルに信頼できる商品を選び、続ける投資なのです。



**積立投資は、情報やデータではなく、先人の経験の結晶ともいえる「知恵」を最重視して続けていく、古くて新しい投資の考え方なのです。まさに「果報は寝て待つ」投資術です。**

## 9. いくら準備が必要か

2009年の総務省の家計調査による60歳以上の1世帯当たりの月額収支

平均収入 18.3万円

不足4.5万円

生活費 20.4万円 税・社会保険料 2.4万円

65歳から女性の平均寿命の86歳まで、21年間生きるとして、運用をしないと考えると単純計算(4.5万円×12月×21年)で1134万円が必要になります。別途、葬式費用などを考えると1500万円くらいが、最低限必要なお金といえるでしょう。

フィデリティ退職・投資教育研究所が2010年4月に発表した、サラリーマン10976人に行った意識調査では、公的年金以外に、ゆとりある老後のために必要な金額は以下のようになりました。

〈公的年金以外に必要な老後資金〉

年収300万円未満	2554万円
同300万～500万円未満	2830万円
同500万～700万円未満	3049万円
同700万～1000万円未満	3441万円
同1000万～1500万円未満	4101万円

## 〈2000万円を目指す積立額〉

期間	積立額(月)	投資総額	商品の成績		
			2倍	3倍	5倍
40年	2.5万円	1200万円	約1680万円	約1980万円	約2400万円
30年	3.3万円	1200万円			
20年	5万円	1200万円			
10年	10万円	1200万円			

あくまで、直線的に上昇したケース。実際は上下に変動するので、参考値として

## 10. 積立投資はどういう投資か

1	値下がり安心効果	下がっても安心
2	スピード回復効果	損から素早く回復しやすい
3	リバウンド効果	下がってから上昇するとリターンが得られる
4	ストレス抑制効果	上げ下げのストレスを抑えられる
5	タイミング・フリー効果	始めるタイミングに悩まない
6	プロセス回復効果	値動きが大切
7	継続効果	続けることで口数が積みあがる
8	予測不要効果	細かい予測はいらない

## ●積立投資は「自律」する投資

積立投資は自分の欲を抑える「自律」する投資です。支出を管理して、将来に残して積み上げていく投資です。それは短期的な「儲け」を追い求める投資とは別物です。目先の欲を満たすのではなく、将来のために欲を抑えます。

財政赤字が膨らみ続ける日本だからこそ、個々人の将来の財産づくりとともに自律力が培われる積立投資は皆で共有する価値があると思われれます。

**日本人の伝統的精神風土に適合した「積立投資」を日本の文化にすることが、日本のネクスト・フロンティア、「力強い市民社会の成立」に一步近づくことになるのではないのでしょうか。**

(解答)

問題1、③ 問題2、③ 問題3、① 問題4、③ 問題5、② 問題6、② 問題7、2番目

(出所) 半値になっても儲かる「つみたて投資」 星野泰平著